

検査部だより

第 14 号 平成 29 年 6 月



病院で検査するために採る材料を「検体」といいます。血液や尿は病院で採取されることも多く、馴染みのある検体です。血液ほど採る機会は多くありませんが、痰（たん）も検体の一つで、病院では「喀痰（かたん）」といわれます。今月号では喀痰の検査についてお話しします。

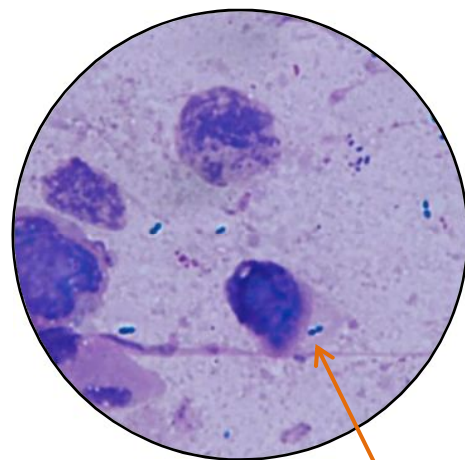
痰は呼吸器系の粘膜から分泌される粘液で、外から吸入された異物（細菌、ウイルス、ほこりなど）をとらえて外界に出す役割があります。

痰の中には、肺や気道からはがれた細胞や細菌などが含まれるため、喀痰検査は呼吸器の病気を調べるために大変重要です。喀痰検査には細菌検査と細胞診検査があります。

喀痰検査で何がわかるの？

① 喀痰細菌検査

喀痰に混じっている細菌や真菌など、肺炎や気管支炎の原因になっている菌を調べます。この検査には喀痰をスライドガラスに塗って顕微鏡で観察する塗沫検査と、喀痰の中の菌を培養して菌の種類を調べる培養検査があります。培養検査は一般の細菌は 3～5 日、結核菌は発育が遅いため 6 週間ほどかかります。

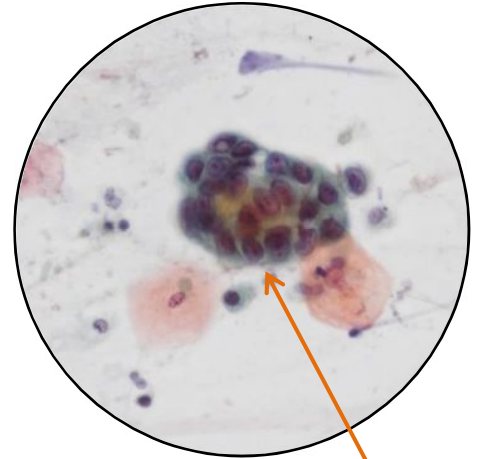


メガネのように見える肺炎球菌



②喀痰細胞診検査

喀痰に混じった細胞を顕微鏡で観察し、がん細胞がないかどうかを調べる検査です。肺がんは喀痰の中にがん細胞が排出されることも多く、そのため肺がんの診断の一つとして喀痰細胞診検査が行われています。



肺線がんの細胞

痰のとり方とお願い

- 痰を出すには起床時が一番です。
- はじめにうがいをして口の中をきれいにしてください。
- 少し水を飲むと痰が柔らかくなって出やすくなります。
- 深く息を吸って強い咳とともに痰を出します。
- 出にくいときは、大きく深呼吸して 2～3 回咳ばらいをしてから、のどにからまる痰を出すようにしてください。
- 指定の容器に、できるだけ多くの痰をとってください。
(2 ミリットル以上が望ましい)
- できるだけ速やかに提出してください。すぐに提出できない場合は冷蔵庫に保存してください。



**求む！
良い痰！**



「つば」では正しい結果が得られない可能性が高くなります。なるべくのどの奥の痰を出すようにしてください。
検査では膿性部分（黄色や白い部分）を含む痰が「良い痰」です。

